

手広中学生徒が ひと足早く田植え

ふれあい体験学習で……おにぎりの味も体験

田植え祭2日前の9日、近くの鎌倉市立手広中学校の生徒19人が、ふれあい体験学習として緑地を訪れ、さくら田んぼの南半分に田植えをした。

午後0時半過ぎに運動着姿で来場した生徒たちの、1人を除く18人が女子。はだしになって田んぼに入るときは、キャアキャア騒がしかったが、大屋進、高橋潔さんが操作する「田植えメジャー」に合わせて植えるうち、泥にも慣れ、苗を植える手つきも確かになって、約1時



「けっこう整然と植えたじゃん」

間で植え終えた。

田植えメジャーは3

年前、高橋さんが考案、製作したもので、太目のビニール紐にペットボトルの蓋が30センチ間隔で固定してある。その蓋に合わせて、苗を植えれば、稲株が等間隔に整列した状態で育つ。4本あり、11日の田植え祭でも全田んぼで活躍する。



「植え方、これでいいんですか」

5枚の田んぼには、「さくら」のほか、「れんげ」「ふじ」

「つくし」「すみれ」と花の名がついている。田んぼの会が板に田んぼ名をペンキで書いた立て札を作成してあった。田植えの前に、生徒たちにその立て札を、田んぼごとに立ててもらった。



「1人2個だけ？」

植え終えて、おにぎり

田植えを終え、御所川で足を洗った生徒たちが入り口広場に戻ると、おにぎりが待っていた。去年秋の収穫米を、小坂泰子さんが備品大型電気炊飯器で炊き、自主保育グループ「でんでんむし」の母親たちに応援してもらって、にぎっておいた。

田んぼ班と並行して、生き物観察班19人も来場、久保廣晃、野村紀子さんの案内で川や池を見て回った。観察を終え、入り口広場のおにぎりを前に、田んぼ班と合流。おにぎり1人2個とタクワン2切れに群がっ

た。最後に残った10個をめぐり、男女とも盛大なジャンケン合戦があった。